長田下地域　振興会だより　第13号

２０１０年(平成２２年)１１月２０日発行

明神一座！頑張りました

安芸長田明神一座、第４回目地元公演が無事終了したのは、９月 25 日午後９時でした。「よかった！」「よかったで！！」あっちからもこっちからも観客の声援が聞こえて来たときの感動は、今も忘れることができません。

農作業が忙しい中、又寒い中、わざわざ観に来てくださった方々を役者全員で最後まで見送ったとき心底「やってよかった」と思いました。

振り返ってみれば、８ 月頃から台本を持って練習に取り掛かり、その合間を縫っては背景幕を描いたり、ポスターを書いたりと演技以外にもこなさなければならない仕事が山積みでした。初回公演の時と比べると 12 年も経っているので、体も頭もついていけない中での稽古は、正直つらいものでした。今回は女将役でひとは作業所職員の藤城あゆみさんと子役の山本力也君の両名が芝居に花を咲かせてくれました。

当日はひとはの皆さん、長田下地域自治振興会の役員の皆さんの協力を得て、舞台、客席、屋台の準備も滞りなく出来上がり、後は幕が開くと同時に力一杯の演技をするだけです。終わった時は、観客の目にはハンケチ、ハンケチ。「大成功だ。良かった。」心の中で思わず叫びました。

皆さんの協力があったおかげで、地元公演が無事終了することができました。本当に感謝しております。ありがとうございました。４ 年後も頑張りたいと思いますので、応援よろしくお願いします。

安芸長田明神一座　座長　増田正省

地域の誇り明神一座

地域振興会長　笹岡　邦彦　67歳

安芸高田市の「安芸長田明神一座」が、4年に1度の地元公演で人情時代劇を熱演し、多数の観客の笑いと涙を誘った。

前半のコミカルなやりとりから、後半は一転してシリアスな演技に変わり、観客を一座得意の人情の世界へと引き込んでいった。

感動の場面や決めぜりふには観客から惜しみない拍手が送られた。ラストシーンでは役者、観客とも涙。万雷の拍手の中、幕が下りた。

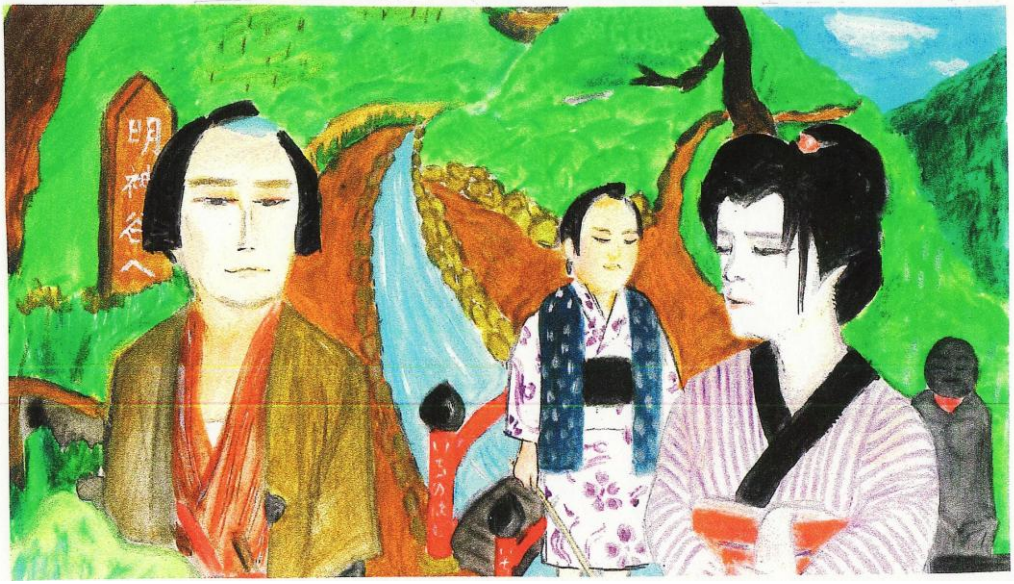
同一座は、12年前に結成。一貫して人情時代劇に取り組んでいる。正面から人情の機微に迫る演技で素人劇団としては高い評価を受けている。

昼間は仕事のある団員が、夜や週末を利用して、練習、舞台装置の製作など多忙を極めている。

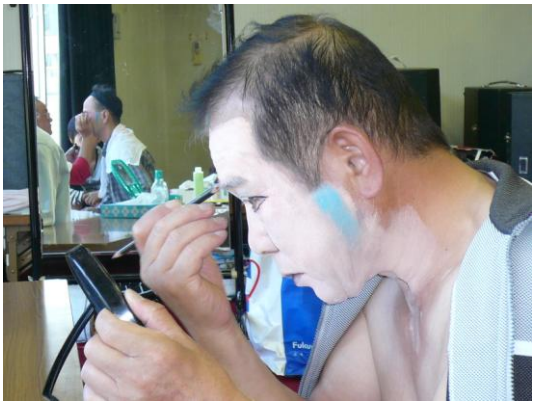
地域振興会、施設、諸クラブなどで会場準備の協力はもちろん、出店の運営、前座出演など盛り上げに協力した。

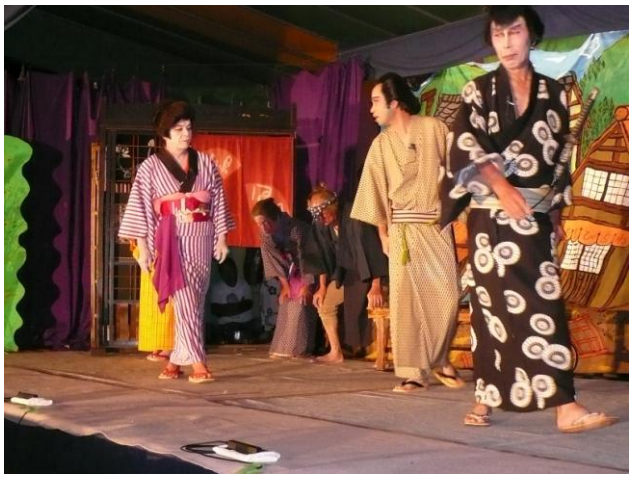
役者、裏方、観客、地域住民が一体となってつくりあげた一大イベントは、感動的だった。田舎芝居という文化の継承にとどまらない、地域の輪と和を創出している明神一座を誇りに思う。

（安芸高田市）



9/25 明神一座とっておきの写真





長田下地域自治振興会役員の皆様には準備段階から後片付けまでの間、ご支援・ご協力を頂き感謝申し上げます。また、ひとはの仲間・日之原太鼓・オカリナクラブ・舞踊の会・詩吟剣舞の会・谷林様・今実様・自治振興会有志の皆様の出演も頂きありがとうございました。そして、寒い中、最後まで熱い声援を送って頂きました皆様に心からお礼を申し上げます。

一座員より

安芸長田明神一座の4年毎の新作が披露されました。
「子別れ地蔵」の初公演、中長田集会所グランド一杯に舞台、観客席を囲む屋台の数々。うどん・焼きそば・から揚げ・おむすび他、ビールにお酒、飲んで食べて腹ごしらえ十分。
午後5時半に第1部の演芸が開演、出演者の皆様は自慢の腕前を披露されました。
夕闇に包まれた星空に、舞台を照らすスポットライト！
明神一座の役者面々が勢ぞろい、増田座長の口上にて開幕。
聞くも涙、語るも涙。
人情時代劇“子別れ地蔵”我が子と別れ母として･･･
目を閉じれば瞼に浮かぶ数々の場面。もう一度見たい方、見損なった方は11/27(土)の人間ホール（甲田ミューズ）にて再公演がありますのでお見逃し無く。

世の中が気持ちまですさんでいる中で
この長田下地域から男が立ち上がった
どんな世になっても変えてはならぬもの
この人情を守り伝えるために
男たちは芝居を演じた
仕事の合間を縫って
夜な夜な寝ごとにまでセリフをいい
慣れぬしぐさにも　男は恥じらいを捨て
我が役と向き合い　裏方に打ち込んだ
あれから12年
演ずるたびに観衆のあつい涙がほおを伝わるとき
男たちは
人情の火をともし続けていることの喜びを
ふところにしまいこむ

「下長田地区の文化財保護と伝承」について考える④

今回は、下長田に伝わる無形文化財について考えてみました。

その一つに、「盆踊りと盆唄」があります。最近では、開催日が８月 14 日にほぼ定着し、盆踊りだけでなく、夜店も出され、地域行事として盛大に行われています。

その「盆踊り」の始まりは、お盆の起源にあるようで、インドの目蓮尊者という方の教えに、旧暦の７月 13～15 日を中心に、餓鬼道におちて救いようのない死後の苦しみから死者の霊を救うため、霊に飲食を供え、読経し、精霊を慰めたという仏教の言い伝えにあるようです。奉納する踊りは、付属物だったようです。

こうした伝統は、5～60 年前までは、お寺のお聴聞の後、お寺の広い境内でにぎやかに盆踊りが行われていました。盆踊りの会場は、長田の二つのお寺が１年交替でされていました。

その後、各地の盆踊りは、お寺の行事と切り離され、民衆のレクリエーションの場として発展し、人々の交流の場に変化しました。昭和 30 年代後半からは町内各地に、住民集会所が出来はじめ、この時流にそった形となりました。古老の方にお聞きすると、昔、盆踊りの場は、若い男女の仲を取り持つ良い場所だったそうです。

その後、特に下長田地域では、青年会の「明神クラブ」が誕生すると、その若いエネルギーが「盆踊り」をはじめ、文化的行事の機関車の役となって、今日まで長い間続けてこられたわけです。

「盆唄」については、次号で詳しくお話したいと思います。

発行：長田下地域自治振興会　　担当：広報委員会、企画調整部